

中央図書館が オープンから1年



昨年9月改築オープンした市立中央図書館は、この1年間で入館者や貸出冊数が旧図書館に比べて激増しています。図書館では市民の皆さんの書齋として気軽にもっと利用してほしい呼びかけています。

開館以来の利用者は
六万四千人

昨年九月一日にオープンした市立中央図書館は、すっかり市民に定着し、利用者や貸出冊数も旧図書館に比べて大幅に増加しました。新図書館は、明るく広々とした一般図書コーナー、くつろいで読書のできる児童コーナーや雑誌コーナーなどが設けてあり、訪れた人たちはゆったりとした気分読書を楽しんでいます。

この一年間の入館者は、六万三千八百九十二人(一日平均二百二人)で旧図書館に比べて二・五倍と増えています。また、館外貸出冊数は八万六千九冊(一日平均二百五十五冊)、館内閲覧冊数が十三万七千三百四十四冊(一日平均四百三十五冊)となっており、いずれも旧図書館に比べて三倍から四倍の伸びとなっています。

「親子読み聞かせ会」も好評です

図書館では、本の貸し出しや、読書相談、文庫・資料の相談などはもちろんですが、図書館から離れた人たちのためのブックモービルの運行や団体貸出文庫制度、テーマ関連図書コーナーの設置、そしてボランティアグループによる「親子読み聞かせ会」なども行っており、好評を得ています。図書館は、市民の皆さんの書齋です。大いにご利用ください。

利用者の一言

〈千葉陽子さん・佐藤香奈子さん・城南小三年〉
学校の帰り、ほとんど毎日利用しています。たくさんのお書がありますが、学研マンガなども置いてください。
〈能登屋治君・第一中二年〉
家が近いのでよく利用します。旧図書館に比べ、図書が増えているので、もっと多くの市民に利用してもらいたいと思います。
〈湯沢悦子さん・有浦四丁目〉
新しい図書館と、おかあさんたちがボランティア活動として行っている親子読み聞かせ会は楽しいので、もっと多くの市民に利用してもらいたいと思います。

図書館の本を借りるには

小学生以上の方ならだれでも簡単な手続きで一人三冊以内、二週間借りられます。初めて利用される方は受付で登録をしてください。

▽開館時間
・日曜日・金曜日
午前9時30分～午後5時15分
土曜日は午後0時30分まで

読書感想文を募集

〈応募資格〉 高校生以上の市民
〈課題図書〉 ①「担担者」(石井仁著・新潮社) ②「地籟」(大原富枝著・文芸春秋) ③「破獄」(吉村昭著・岩波書店) 課題図書と自由選択図書のいずれでも可
〈枚数〉 四百字詰め原稿用紙5枚以内
〈賞〉 最優秀作1名・優秀作2名・佳作5名(学生の部、一般の部とも同じ)
〈締切〉 10月10日(水)必着
〈提出先〉 市内字谷地町13番地中央図書館内「第15回市民読書感想文係」宛
〈わしいことについては、中央図書館(☎42-2525)へ



ガラス張りで見える新聞、雑誌コーナー

▽休館

第三日曜日、土曜日の午後、祝日、第四木曜日、年末年始
なお、休館日及び時間外の本の返却については、図書ポストが正面玄関に設置されていますので、そちらをご利用ください。
また、毎週金曜日午後三時から「読み聞かせ会」を開催していますのでご参加ください。
図書のことなら市立中央図書館(☎42-2525)へ。

市長の対話ノート

スポーツの秋



No. 98

「健やかに生まれ」「健やかに育ち」「健やかに老いる」ことは人生の理想です。

「ルールを守り(法治)」「フォローし合い(相助け合い)」「健康」であることが、人間社会生活の原点であります。

このように、個人生活からも、社会生活上からも「健康」ということが土台になっていることは間違いありません。にもかかわらず市民の健康がすぐれているかと申しますと、願望とは逆になっています。

原因はいろいろあるでしょうが、医学的には三つだそうで、一つは先天的に、二つには環境衛生的に、三つには生活習慣的にあるそうです。

問題は生活習慣の原因が大部分ですが、中でも生活の中のストレスが特に大きなウエイトを占めていることとです。そこで必要なことは、もともと生活の中にスポーツをどんどんとり入れて、ストレスを解消することが極めて大切です。

スポーツは楽しみながら社会生活に必要な原点も、個人生活の理想である健康も同時に培ってくれます。澄みきった秋空のもと、体力と気力に合った運動を通して、たくましい体の中に充実した知性を養い、大館市に新しい活力を誕生させましょう。

伊山 健治郎